

2 1 重点事業評価

事業名

こども・青少年・子育て世代などの利用者層の拡大

(1) 事業の概要

対象（誰を・何に）

これまで県立図書館としては利用を事実上制限していた子どもや中・高校生のみでなく、子どもと一緒に来館する子育て世代の親を大事な図書館利用者としていく。

意図・目的（どのような状態になることを狙っているのか。結果どうなるのか。）

「こども図書室」や「ユースコーナー」の一層の充実により、子どもや中・高校生などの若者層を利用者層として定着する。「くらしガーデン」の子育て支援資料などの充実により、今まで利用が少なかった母親層などに利用者層を拡大する。図書館入口の「くらしガーデン」付近一帯が、子どもから親世代までが緩やかに共存する空間となり、一体的な利用が可能となる。

具体的取り組みの概要

例年、利用者が増える夏休み前までに、「くらしガーデン」付近を大幅に拡張し、子育て支援をはじめ、若いファミリー層の日常的なニーズに対応した資料も整備する。「ユースコーナー」では、若者に人気のある話題性のある資料だけでなく、各分野の入門書の整備にも留意する。7月1日より12月までの予定で、「こども図書室」の運営や関係機関等との調整にあたる「子ども読書活動専門員」2名を配置する。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）
「こども図書室」「ユースコーナー」「くらしガーデン」の合計貸出冊数	年間50,000冊

(3) 事業評価（自己評価）

- A 目標が十分に達成された B 目標がある程度達成された
C 目標の達成が不十分である D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	評価	理由
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か	A	昨年度に引き続いての重要課題であり、サービス拡張へのニーズが大きかった。また、本格オープンした「こども図書室」の定着化も課題としている。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか	A	本年度の達成目標数値を大きく上回る83,621冊の貸出があった。前年比で利用者数、新規登録者1.5倍、利用冊数1.7倍と大幅増となっている。とりわけ「くらしガーデン」を中心としたコーナーは、常時蔵書の半数ほどが貸し出されており、狙いとした子育て世代等への利用増が実現している。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等	A	計画的に配分した資料購入費で、各コーナーが活用され、想定を超える成果が得られた。
総合評価（成果）	総合的な評価	A	「くらしガーデン」付近の拡張は、目標とした子育て世代の利用増加だけでなく、効果は「こども図書室」や「ユースコーナー」にも及び、子どもから親世代までが一体的に共存する空間が創出された。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

定着した「こども図書室」の効果を、全体的になものとするための条件整備に取り組む。各コーナーに求められる「新しさ」など、利用価値を高める方策について、システム更新における課題として解決する。コーナーの効果を、専門書部門に波及させるよう取り組む。

(5) 図書館協議会意見

利用者数、新規登録者数、個人貸出冊数ともに目標を超えて大幅に伸びており、利用者層の拡大が着実に進んでいることが分かる。自己評価の通り、狙いどおりの成果を上げたと評価できる。

こども・青少年・子育て世代の親などの利用者を増やそうという発想や、子育て世代の親を支援しようという発想を高く評価する意見があった。また、個別の事業内容についても、こども図書室のレイアウトや雰囲気作り、大型絵本の読み聞かせ、紙芝居・英語絵本の読み聞かせ等の活動を評価する意見があった。さらに、「こども読書活動専門員」2名の配置を評価し、その継続を望む意見、および、ボランティアの活動を評価する意見があった。

協議会委員から寄せられたその他の要望等に次のようなものがあった。

- ・特にイベントには工夫があり、英語絵本読み聞かせは今後も継続して欲しい。
- ・子育て世代対象の絵本講座、読みきかせ講座を開いてはどうか。
- ・こども図書室のボランティアの研修を実施し、ボランティアによる体系的で継続的な読みきかせやおはなし会を実施していったらどうか。
- ・こども図書室のイベントを新聞等でもっとアピールしてほしい。
- ・ユースコーナーの取り組みも目標を上回っており評価できる。今後このコーナーの効果が他の部門にも波及していく工夫が必要ではないか。
- ・ユースコーナーの本は中高生以外にも利用されるものが多い。コーナーの名称や排架する資料等を再検討しても良いように思う。
- ・学校の社会科見学先としてもっと取り上げてもらえるようにPRしてほしい。
- ・PRの工夫や、新潟市の図書館巡回便との連携を検討するなどにより、公民館や学校図書館への貸出増を図ってはどうか。